

會 務

第 22 卷 第 1 號 昭和 11 年 1 月

役 員 會

第 11 回役員會 (昭 10・12・16)

出席者；青山會長，草間，平井兩副會長，池邊，内田，小野，金森，佐藤，藤井，古川，宮長各常議員，中川，名井兩副會長

決議並に報告事項

1. 親王殿下御誕生に就き 12 學會を代表し日本工學會より賀表を捧呈せり。

2. 機械學會機械用鋼索規格制定委員會は規格の成案を得たるを以て解散の旨同會より報告ありたり。

3. 昭和 11 年度に於ける本部及關西支部收支豫算は原案の通り承認せり。

4. 定款及規則改正の件

定款及規則改正委員會の草案は更に同委員會に於て審議し次回役員會に諮ることとす。

5. 昭和 10 年度に於て贈呈すべき土木賞牌箇數決定の件は理事に一任せり。

6. 無條件基金の利子は全額を事業資金に編入することに決議せり。

7. 入退會の件

有賀茂君外 19 名を會員に，井上道男君外 88 名を准員に安藤道夫君外 76 名を學生員として入會を承認し，石原常八君外 1 名を准員より會員に転格を承認せり。

土木學會振興委員會

第 3 部會第 9 回委員會

出席者；野坂委員長，内山，立花，岡崎，松井，鶴岡，太田尾，瀧山，瀬戸各委員，小野寺庶務主任

協議事項

第 2 部會の提案に基き土木學會内に總務，普及，法制，調査，組織，會計，編輯，東亞の 8 部を置きたる場合各部に於て特に實行すべき事業として下記の各項を擧ぐ。

1. 總務部

A. 講演會：技術學術に關する通俗並に専門の講演會を全国各地(例へば札幌，仙台，東京，名古屋，大阪，廣島，金澤，福岡，京城，大連，臺北等に講師を

派遣して年 1 回の割に開催すること。

B. 講習會：成るべく一般土木技術家に共通なる問題(防災工学，銲接，土木法規の解説又は設計豫算見積に關する講習會等)を特に實地技術家を目標とし又土木學會内各種委員會及び調査部に決定せる事項の普及を図る方針で講習會を開催すること。

C. 座談，討論會：會員一般の關心を有する議題につき出席者の自由討論を行はしむ。(10 月 29 日第 3 部會議事参照)。

D. 見學旅行會：成る可く簡易として經濟的行ふこと。

2. 普及部及組織部

A. ラヂオ放送：月 1 回位の割で土木學會より演題講師を選定して土木時事問題を放送する様放送協會に懇願すること。

B. 會員増加策：第 3 部會の決議に基き會誌を第 1 及び第 2 部に別け准員には第 2 部のみを配布して新會員を勧誘すること。准員にして希望者には第 1 部を正會員並の會費にて頒つこと。

3. 法制部

A. 東京都制案：東京都制案は目下來議會に提案すべく立案中と聞く土木學會内にも調査委員會を設置之が内容を研究建議すること。

B. 港灣法及び更に廣く水法の立案

C. 請負制度に關する立案：請負制度特に入札制度工事契約書に關する調査立案

D. 土木技術資格制度の立案：速に土木士法の如き國家試験制を確立し，實力者登用の途を講ずること。

4. 調査部

A. 地方別標準單價，歩掛りの調査

B. 銲接に關する規格の調査

C. 災害調査には從來の中央制に依らず現地の技術家に委嘱して責任ある報告を提出せしむること。

5. 會計部

特別會員の勧誘又は學會制定の工事契約書に使用料を徴集する等の方法により事業資金を調達すること。

6. 編輯部

工事年鑑，工事寫真帖を年 1 回刊行すること。

7. 東亞部

内務、鉄道、大学其他大企業の現役にある人を東洋各地に派遣して土木技術の調査、視察、宣傳せしめる様土木学会が委嘱斡旋すること。

第 3 回工学会大會土木部講演委員會

第 2 回委員會 (昭 10・13・4)

出席者： 大河戸委員長、赤木、青木、井上、河口、樫木、後藤、鈴木、田中、萩原、平山、三浦、伊藤(宮本代理)、山口、各委員、藤井工学会講演委員、龜田、川口、末森、瀧淵、成瀬、福田各編輯委員

前回委員會にて選定せる論文報告依頼者の外に更に更に各部門に若干名の追加を爲し計 305 名を選定し夫々論文報告を依頼する事に申合せり。

定款及規則改正委員會

第 2 回委員會 (昭 10・12・12)

出席者： 名井委員長、井上、池邊、草間、佐藤、野坂、平山、古川、宮本各委員、柴原書記長、小野寺庶務主任

小委員に於て草案したる改正案に基き検討し更に來る 12 月 14 日再審議することとせり。

第 3 回委員會 (昭 10・12・14)

出席者： 名井委員長、佐藤、野坂、平山、古川各委員、柴原書記長、小野寺庶務主任

前回の委員會に於て検討したる改正案に基き審議をなし成案を得たるを以て 12 月 16 日の役員會に報告することとせり。

第 4 回委員會 (昭 10・12・26)

出席者： 名井委員長、井上、池邊、草間、佐藤、野坂、平山、古川、宮本各委員、柴原書記長、小野寺庶務主任。

第 3 回委員會に於て成案を得て役員會に報告したる改正原案は更に研究を要する點あり且つ専門家の意見をも參照して慎重審議の結果茲に完成を見るに至れり依て之を次回役員會に報告することとせり。

維新以前日本土木史編纂委員會

第 34 回委員會 (昭 10・13・21)

出席者： 眞田副委員長、眞島、名井、久野、小川、那波、樫木、赤木、牧各委員、高柳、栗原、小川各囑託

本月の編纂事務その他の報告をなし次の事項を協議せり。1. 第 4 編の原稿を督促し編輯を急ぐこと。

土木学会關西支部記事

昭和 10 年 12 月 6 日午後 5 時より中央電氣俱樂部に於て第 6 回役員會を開催し支部長永井専三君外 12 名出席下記事項を協議せり。

1. 昭和 11 年度豫算の件
2. 昭和 11 年度大會の件
1. 昭和 11 年度役員候補者推薦有志者の件
4. 12 月忘年會晚餐の件
5. 第 6 回土木工学研究會精算の件
6. 支部秋季見学会精算の件
7. 本部第 23 回秋季視察旅行經費の件
8. 技術團体事務主任者選談會の件

昭和 10 年 12 月 24 日午後 5 時より中央電氣俱樂部に於て第 7 回役員會を開催し支部長永井専三君外 9 名出席下記事項を協議せり。

1. 昭和 10 年度決算の件
2. 本部第 23 回視察旅行會立替金計算の件
3. 基金勘定の件
4. 積立金勘定の件
5. 積立金元勘定の件
6. 土木用材總覽精算の件

日本工学会記事

○昭和 10 年 12 月 12 日日本工業俱樂部に於て第 3 回工学会大會展覽會委員會第 2 回打合せを開催し本展覽會に於ける経過報告あり次で下記事項を決議せられたり。

1. 本展覽會出品規定(自第 1 條至第 14 條)並に出品勸誘狀及出品申込書を別紙の通り決定せり。
2. 出品規定第 2 條第 1 項の委員の審査方法は出品申込受附と同時に出品目録の 1 部を日本工学会より出品推薦學會選出委員 (3 名以上の場合は連名とし其の内 1 名の住所に添附す) に廻付し出品物が展覽會の趣旨に適當せるか否かの審査を乞ひ其の結果は右目録と共に日本工学会へ送還するものとし日本工学会は之を出品申込者に通告すると共に山内委員に目録を添へ通知す、但し會期に接近し出品輻輳せる場合には後段陳列場係と合議審査を行ふことあるべし、審査に際しては出品申込書の製品申出品目録記載以外のものにして特に出品を懇願するを可とするものあらば其の旨日本

工学会へ一報のこととす、日本工学会は更に申込者に此旨勧誘すべし。

3. 展覧會陳列場の整理及 其他監督並に會場係委員との折衝を計る爲に展覧會委員中より3名の陳列場係を選出することとす。

同係委員は山内鎮一君、佐々木六郎君、谷下市松君に委屬することとす。

その他の記事

○昭和10年12月9日理事會を開き青山會長、草間、平井兩副會長、古川主事、佐藤主計、藤井編輯長出席し次の事項を協議せり。

- 1. 昭和11年度收支豫算に關する件
- 2. 昭和10年度に於ける土木賞牌贈呈に關する件
- 3. 其他

○昭和10年12月13日正午より丸ノ内會館に於て滿鉄

車務所長佐藤應次郎君及關東州廳土木課長清水本之助君を招待し午餐會を催し東亞部事業並に事業資金調達等に就き懇談をなせり、當日出席せられたる諸君次の如し。

佐藤應次郎君、清水本之助君、青山士君、草間偉君、平井喜久松君、鈴木雅次君、古川淳三君、佐藤利恭君、藤井眞透君、中川吉造君、末森猛雄君、柴原書記長、小野寺庶務主任

○昭和10年12月16日土木学会々員名簿を發行成規の手續を了し12月17日全會員に配布せり。

○昭和10年12月23日土木学会誌第21卷第12號を發行成規の手續を了し12月24日全會員に配布せり。

○昭和10年12月28日株式會社間組社長小谷清君より東亞部事業援助として1000円の寄附ありたり。

○昭和10年12月16日までに下記諸君を入會並に転格の手續を了し名簿に登録せり。

入 會 々 員

會 員

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
有 賀 茂君	姫路市水道課	重 田 勇 助君	銚子漁港修築事務所	近 藤 信 興君	東京市水道局擴張課
浦 田 清 志君	熊本縣佐敷土木管區事務所	中 村 政 男君	内務省横濱土木出張所	中本安太郎君	大阪市土木部道路課 北部出張所
小 川 順 一君	北海道廳土木部河港課	西 垣 晋 作君	東京帝大農学部	米 澤 嘉 幸君	東京市水道局庶務課
小 里 房 次君	青森縣廳土木課	濱 本 齋 祐君	神奈川縣水道局	石 井 半 君	東京市水道局擴張課
木 村 又 治君	山梨縣廳土木課	平 井 彰君	銚子漁港修築事務所	小 山 重 作君	〃
後 藤 忠 平君	鉄道省長岡建設事務所	星 正 巳君	慶尚北道治水事務所	高 木 紫 雲君	三井礦山田川鑛業所
齋 藤 隆 一君	室蘭土木事務所	栗 岡 薫君	大阪市土木部河川橋梁課		

准 員

井 上 道 男君	滿鉄鉄道部工務課	川 手 良 親君	山梨縣廳土木課	櫻 田 安 忠君	奈良縣佐保川改修工事事務所
伊 藤 清 清君	水道協會大阪出張所	河 合 三 郎君	埼玉縣大里用水路改良事務所	志 關 壽 男君	白石基礎工業自資會社
伊 藤 信 之君	大阪市土木部道路課	木 島 貞 雄君	名古屋市水道部下水課	清 水 健 夫君	内務省横濱土木出張所
幾 野 靖 居	内務省横濱土木出張所	木 畑 稔君	京城間組支店	芝 田 勇 夫君	姫路市土木課
梅 村 吉 朗君	愛知縣土木部河川課	龜 卦 川 猛君	北海水力電気會社	鈴 木 勘 資君	京都市水道局下水課
海 野 衛 君	釧路土木事務所	國 友 昌君	大林組	鈴 木 鈴 雄君	都市計畫山形地方委員會
浦 邊 清 磨君	成蹊北道廳土木課	桑 原 彌 壽雄君	鉄道省長岡建設事務所	關 根 正君	鉄道省北海道建設事務所
小 川 猛 夫君	茨城縣廳土木課	小 高 興 一 郎君	内務省横濱土木出張所	岸 澤 浩 三君	京城間組 支店
大 平 一 君	秋田縣土崎港町役場	小 仲 次 郎君	滿鉄鉄道部工務課	多 田 利 治君	滿洲國道局納河建設事務所
鬼 塚 一 敏君	銚子漁港修築事務所	佐 々 木 久 男君	白石基礎工業三池事務所	高 田 洪 吉君	内務省横濱土木出張所
金 田 政 雄君	兩宮線事務所	佐 藤 五 郎君	滿鉄鉄道部工務課	竹 内 貞 壽君	〃
川 島 敏 夫君	姫路市土木課	櫻 木 稔君	愛知縣土木部道路課	武 田 吉 一君	姫路市土木課

谷川朝彦君 成鐵北道總土木課
 千葉學而君 内務省横濱土木出張所
 月邨德彌君 〃
 寺田宏君 鬼怒川水力電氣會社
 富樫嘉之助君 岡山縣土木課
 外山三郎君 滿鐵鐵道部工務課
 豐田一雄君 内務省横濱土木出張所
 中野茂雄君 白石基礎工業合資會社
 中水宗弘君 岐阜縣土木課
 中村重庸君 吳海軍建築部
 中山博夫君 内務省横濱土木出張所
 西長義夫君 岡山縣津山土木出張所
 關津武雄君 銚子臨港修築事務所
 長谷川直人君 滿鐵鐵道部工務課
 萩島茂雄君 東京市土木局下水課
 橋田孝山君 内務省下關土木出張所
 濱田三郎君 内務省横濱土木出張所
 濱本多喜男君 名古屋水道部

樋口和隆君 滿洲鐵道局奉天建設處
 藤井彌君 東電信濃川建設事務所
 藤田武男君 哈爾濱水運局工務處
 本田徳次郎君 内務省横濱土木出張所
 牧野潤二君 東洋拓殖會社朝鮮支店
 増子良男君 岩手縣黑澤尻土木管區
 榎谷規義君 室蘭土木事務所
 松本兼直君 内務省横濱土木出張所
 松本久一君 奈良縣土木課
 丸山一雄君 朝鮮總督府奉天土木出張所
 三笠善一郎君 東京市土木局下水課
 宮本邦男君 白石基礎工業合資會社
 守谷正壽君 土木建築業守谷商會
 森正君 白石基礎工業合資會社
 八藤俊一君 姫路市土木課
 和田保君 内務省横濱土木出張所
 若佐義司君 〃
 浦上敏夫君 福岡縣土木部役所工務所

遠藤文吾君 大阪市土木部河川橋梁課
 小野茂君 哈爾濱特別市公署都市建設局
 大矢孝一郎君 名古屋水道部下水課
 唐澤重雄君 東京市下水道擴張課
 佐々木惠一君 〃
 田崎良雄君 〃
 筒井正次君 〃
 中村清治君 〃
 野村傳君 兵庫縣八磨土木出張所
 岩瀬重治君 東京市水道局擴張課
 小山繁三君 靜岡縣下田土木出張所
 鈴木清造君 東京市水道局擴張課
 鐵村正三君 旭川土木事務所
 布田初志君 東京市水道局擴張課
 古川主計君 滿鐵鐵道建設局計畫課
 持田茂八君 東京市水道局擴張課
 湯地良一君 滿鐵總州建設事務所

学 生 員

安藤道夫君 東京帝大
 安藤良助君 名古屋高工
 秋山格君 東京帝大
 荒木英男君 關西高工
 井上太郎君 名古屋高工
 伊藤孝一君 仙臺高工
 石川榮三君 日大専門部
 石村孝君 名古屋高工
 今川義郎君 神戸高工
 岩崎晃君 日大工學部
 上荷敬一君 京都帝大
 植月喜久男君 神戸高工
 浦部千尋君 武藏高工
 小形英二君 京都帝大
 小倉宏三君 京都帝大
 小田市藏君 神戸高工
 小山田宗人君 京都帝大
 大柿諒君 北海道帝大
 大塚清君 京都帝大
 大橋恒夫君 京都帝大
 大濱金助君 東京帝大
 岡田武一君 神戸高工

角坂仁忠君 北海道帝大
 川口源九郎君 京都帝大
 木下喜兵衛君 關西高工
 木原力君 京都帝大
 北川典生君 神戸高工
 吉川吉三君 京都帝大
 久保正君 神戸高工
 久寶保君 京都帝大
 熊本誠三君 神戸高工
 黒須正悦君 仙臺高工
 小島長治君 日大高工
 小林莊七郎君 北海道帝大
 後藤定吉君 日大高工
 齋藤明君 京都帝大
 坂弘次郎君 北海道帝大
 坂田穎政君 武藏高工
 清水良夫君 京都帝大
 田内俊君 〃
 高松守君 熊本高工
 瀧原浩君 日大工學部
 竹前壽君 東京帝大
 谷本勉之助君 〃

堂垣内尙弘君 北海道帝大
 中西成城君 名古屋高工
 中山敏雄君 北海道帝大
 野中八郎君 京都帝大
 長谷川敬君 武藏高工
 白善武一君 京都帝大
 平田正樹君 〃
 平松勇君 日大工學部
 福井榮治君 關西高工
 二松慶彦君 京都帝大
 藤本得君 東京帝大
 星野出雲君 日大工學部
 堀上健一君 名古屋高工
 三浦繁夫君 關西高工
 三上恒君 京都帝大
 三好宗逸君 京都帝大
 宮澤吉弘君 東京帝大
 迎茂君 武藏高工
 安田正君 京都帝大
 横田幸夫君 神戸高工
 吉野正範君 仙臺高工
 米井正敏君 京都帝大

若島 正君 北海道帝大
 分部兼 男君 仙臺高工
 渡邊 新三君 京都帝大
 渡邊誠次郎君 日大工學部

川島順十郎君 日大工學部
 瀬上 鑛造君 日大高工
 田中恒夫君 日大工學部
 瀧瀬 正治君 日大高工

矢坂仁四郎君 日大工學部
 李 鐘 湖君 “
 岡 田 彰君 “

転格會員

會 員

石原常八君 西村謙一君

土木学会々員數

(昭 10・13・16 現在)

會員	准員	學生員	特別員	賛助員	合計
2 654	3 324	567	2	20	5 567

○圖書及び雜誌 (昭和 10 年 12 月中)

交 換

鉄 と 鋼	第21年 第11號	日本鉄鋼協會	都市問題	第21卷 第6號	東京市政調査會
工学彙報	第10卷 第4號	九州帝國大学工學部	資 源	第5卷 第12號	資 源 局
電氣学会雜誌	{第55卷 第12册 第569號	電氣学会	業務研究資料	{第23卷 第33~ 36號	鐵道大臣 官房研究所
工業化学雜誌	{第38卷 第12册 第454號	工業化学會	道路の改良	第17卷 第12號	道路改良會
機械学会誌	第38卷 第224號	機械学会	Proceedings of the American Society of Civil Engineers. November, 1935.		
港 灣	第13卷 第12號	港湾協會	The Journal of the Society of Chemical Industry, Japan. Vol. 38, No. 19. Society of Chemical Industry, Japan.		
造船協會雜誌	{第164號 昭和10年11月	造船協會	建築雜誌	{第49輯 第606 ~607號	建築学会
建築と社會	第18輯 第12號	日本建築協會	會 報	第36卷 第12號	帝國鐵道協會
水道協會雜誌	第31號 昭和10年12月	水道協會			
衛生工業協會誌	第9卷 第11號	衛生工業協會			

寄 贈

近世橋梁学 上、中	工業雜誌社發行 中村謙一	會 務 彙 報	第40號 昭和10年12月
江戸川水利統制	昭和10年11月 {内務省東京土木出張所		日本土木建築請負業聯合會
東京港を語る	東京港振興會	三菱電機	第11卷 第8號 三菱電機株式會社
沖電氣時報	Vol. 2, No. 6 沖電氣株式會社	工 学	第256號 12月號 東京工學社
水曜會誌	第8卷 第9號 水 曜 會	学 報	第4卷 第11號 東京工業大学
利 根	第1卷 第12號 利根製作營業所	G. S. News	第9卷 11月號 日本電池株式會社
コンクリートの冬季施工法	眞 鍋 簡 好	信 號	第8卷 第12號 信 號 會

鑄物	第7卷 第12號	日本鑄物協會	工業	第3卷 第2號	東京工業大学藏前学友會
工事畫報	第17卷 第13號	工事畫報社	セメント工業	昭和11年 1月	セメント工業社
工業窯焔に就て		工業化学會	彈性體の力学	第3卷	コロナ社
滿洲電気協會報	第33號 12月號	滿洲電気協會	骨組の力学	第2卷	コロナ社
時局匡救河川砂防事業報告第二輯		愛知縣土木部	工学院同窓會誌	第37卷 第12號	工学院同窓會
朝鮮竊民救濟治水工事年報	昭和7年度	朝鮮總督府	工学彙報	第10卷 第4號	九州帝國大學工学部
武蔵高工綠土會々報	第3號	綠土會圖書部	Der Ge: eindetag	Okt. 1935	
工業現勢	第4卷 第12號	東京工業大学		Deutscher Gemeindegtag	
大阪港勢一斑	昭和9年	大阪市役所	L'Ingegnere	Vol. IX, N. 1, 2, 3 1935	
國立公園	第7卷 第12號	國立公園協會		Sindacato Nazionale Fascista Ingegneri.	
セメント界彙報	第333號 12月號			Meddelelser Fra Veidirektren Nr. 1-11, 1935	
	日本ポルトランドセメント同業會			Utgitt av Teknisk Ukeblad, Oslo.	
東京土木建築業組合報	第8卷 第12號	東京土木建築業組合		Annales des Travaux Publics No. 1-6, 1935	
土木建築雜誌	第14卷 第12號	シビル社		Ministere des Travaux Publics de Belgique	

隣 入

Der Bauingenieur, Dezember 1935, 16 Jahrgang,
Heft 47-50.
Beton und Eisen, November 1935, 34 Jahrgang,
Heft 22-23.

Die Bautechnik, November 1935, 13 Jahrgang.
Heft 47-53.
Engineering News-Record, November 1935, Vol.
115, No. 19-22.

會員 大藤直哉君は昭和10年12月3日、伴 宜君は全年12月14日、田賀奈良吉君は全年12月23日逝去せられたり。本會は弔詞を靈前に呈し、恭しく哀悼の意を表したり。

會員 立川大市君、石川律郎君、服部 渡君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

准員 小山壽雄君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

正 誤 表

滿洲國河川測量規定(第 21 卷第 10 號所載)

頁	行	誤	正
1460	第 5 條 4 行	大三角に於けるが如くすべし	大三角に準ず
"	第 7 條 1 行	施行するは勿論	施行するの外
"	第 7 條 10 行	その平均値を使用す	使用の事
1461	上より 2 行	水平面上に設け	設し
"	第 10 條 4 行	特定切斷連絡線	特定せる
1466	第 65 條 3 行	量水標	量水標設置心得及
"	第 65 條 4 行	3. 康德 2 年 2 月 發 量水標測量方法 改正に關する件	全部削除

正 誤 表

新京吉林國道工事報告(第 21 卷第 11 號所載)

頁	行	誤	正
1624	第 10 表計	326 856.871	327 856.871
1625	第 11 表計	902 717.34	902 717.33
"	14	"	"
"	17	297 043.94	297 043.93
"	第 13 表金額	1 439.36	1 438.36
1626	1	本工事費	本工事費 902 717.33 (内……)
"	2	機械費 901 717.34 (内……)	機械費 211 350.43 (内……)
"	3	用地補償費 211 350.43 (内……)	用地補償費 9 115.35
"	4	計 1122 182.12	計 1 123 183.11 (内……)
"	5	10 295.25	10 304.43

會 告

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しましたが、現在所有の図書は未だ充分とは云へませんから、會員の著書其他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

図書室及び娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及び雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自 9 月 1 日至 12 月 31 日 自 午前 9 時 至 午後 8 時 自 7 月 21 日 及 土 曜 日 自 午前 9 時 至 午後 4 時
自 1 月 1 日 至 7 月 20 日 自 午前 9 時 至 午後 8 時 自 7 月 21 日 及 土 曜 日 自 午前 9 時 至 午後 4 時
自 1 月 1 日 至 7 月 20 日 自 午前 9 時 至 午後 8 時 自 7 月 21 日 及 土 曜 日 自 午前 9 時 至 午後 4 時

但し 日曜日及び祭日休。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(實物大)

會 告

日本工學會主催工業展覽會に就て

昭和 11 年 4 月 4 日より同 6 日迄 3 日間第 3 回工學會大會會場に於て工業展覽會が下記出品規定により開催されますから御希望の方は本會又は日本工學會へ御申越下さい。

尙申込書は御申越次第御送附致します。

土 木 学 會

日本工學會主催工業展覽會出品規定 (社団法人 日本工學會)

- 第 1 條 本展覽會は昭和 11 年 4 月 4 日より同 6 日迄 3 日間第 3 回工學會大會々場(本郷區東京帝國大学構内)に於て開催す。
- 第 2 條 本展覽會出品物は優良なる機械、器具、材料及研究參考資料にして工學會大會委員の承認を経たるものとす。
但し模型、設計圖、寫眞等をも特に委員の承認を得て出品することを得。
- 第 3 條 出品をなさんとするものは別紙様式の出品申込書 1 通及出品物目錄 2 通に所定の出品料を添へ昭和 11 年 3 月 5 日迄に日本工學會宛に申込まるべし。
- 第 4 條 前條申込の出品物にして工學會大會委員の承認を得たるものは日本工學會より出品申込人へ之を通知すべし。
陳列場満了の場合には申込期限内と雖も出品を謝絶すべし。
- 第 5 條 陳列場は屋内及屋外とす。
- 第 6 條 屋内陳列場は 1 區劃間口約 2m、奥行約 1m とす。出品物は右の區劃に適合すると共に、1 箇の重量 200 kg 以内のものたるべし壁面使用のもの及屋外陳列のものに就きては其の制限を別に定む。
- 第 7 條 出品料は屋内陳列場 1 區劃に對し金 20 円とす。
壁面使用のもの及屋外陳列のものに對する出品料は別に定む。
出品を謝絶し又は申込期限前取消したる分の拂込済出品料は拂戻すべし。
官衙學校等の參考出品に對しては出品料を免除することあるべし。
- 第 8 條 各出品物に對する陳列場及陳列位置の割當は工學會大會委員の決定に依る。
- 第 9 條 出品物の搬入及整頓は 4 月 3 日午前 9 時より午後 4 時迄の間に行ひ、撤收及搬出は 7 日午前 9 時より午後 4 時までの間に行ふものとす。
屋外陳列のものに就きては別に定む。
- 第 10 條 出品に要する荷造、運搬、陳列設備其の他の費用は出品者の負擔とす。
- 第 11 條 陳列場は室内照明以外の電力及び水道、瓦斯、の設備を有せず。
- 第 12 條 出品物の監視、保護は總て出品者に於て其の責に任じ、盜難、火災其の他如何なる事由によるも出品に關する損害は總て出品者の負擔とす。
- 第 13 條 陳列場に於ては總て工學會大會委員の指示に従はれたし。
- 第 14 條 本展覽會に關する事務は日本工學會(事務所、麹町區丸ノ内 1 丁目 2 番地日本工業俱樂部 5 階、電話丸ノ内 (23) 706 番)に於て取扱ひ、特に指定したる事項に限り直接に工學會大會委員に於て取扱ふ。